

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091500357		
法人名	医療法人 静光園		
事業所名	グループホームきらめき		
所在地	福岡県大牟田市上白川町1丁目246番地		
自己評価作成日	平成24年7月20日	評価結果確定日	平成24年8月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成24年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の病院と連携をとり、訪問診療にて定期的な健康管理、緊急時は外来受診にて、利用者が安心して過ごせる環境を提供しています。また職員の関わりとして、できる限りご本人様の自由を優先できるように過介護に注意しています。ご本人様の残存能力の把握、その能力の活用を生活の中での活動で活かし、グループホームの中でできる限り一人ひとりの役割が持てるような関わりを目指しています。小規模施設である為、人員配置に限界があるが、隣接している三施設の職員と共同でイベントを行う事で、一事業所だけではできない集団での外出などの活動を行っています。さらに、地域交流センターも目の前にある為、地域の方々の活動に積極的に参加し、利用者の生活空間、交流の幅の拡大を図ることで、豊かな人生を送って頂けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である白川病院に隣接し、小規模多機能施設、デイサービスと併設する形で「グループホームきらめき」は開設されている。現代風の高級感あふれる外観と、黒を基調としたシックで落ち着いた内装は、利用者にも居心地の良い暖かみのある雰囲気を感じさせる。リビングや廊下は窓によって中庭に面しており季節の移り変わりをどこにいても感じる事が出来る。
近隣には市の地域交流センターや老人ホームがあり、隣接したグループ内の施設とは合同のレクリエーションや外出行事で交流をもっている。現在の管理者は作業療法士でもあり、グループ内の他の管理者とも連携をとって日々ケアの改善に努めている。地域交流にも熱心で老人会や町内会への参加、大牟田市の主催する認知症の勉強会などの手伝いなども行っている。開設当初から居るスタッフと新人スタッフが協力しながら、利用者一人一人に合ったケアを行い、利用者の自尊心と尊厳を尊重した介護を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在、事業所理念を見直している。今後、理念に沿った実践を職員全員で検討しながら行っていく。	法人として「安心・笑顔・思いやり」の理念があり、申し送りや会議の際に職員全員で確認をしている。日々のケアでも、スタッフ全員が理念に加えて感謝の気持ちをもつよう意識されている。	理念に加えて行動目標を作ることで、日々のケアで実践できるように期待したい。現在、理念を職員で見直しているため、内容に地域に対しての関わりも盛り込んで、地域貢献にも積極的に取り組むことが今後期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は以前に比べ、減少している。現状では、地域交流センターでの活動への参加を通して、地域の方と交流している。	以前は利用者の重度化で地域への関わりが減っていたが、現在では関わりを増やしている。敷地内にある地域交流センターで市主催の「よかばい体操」があり、職員と利用者が一緒に毎週参加している。地域住民も参加しており、地域とのふれあいの場ともなっている。町内会や地域清掃にも職員が参加して関わりのおこす機会をもっている。	交流センターでは「よかばい体操」以外にも、子育てサロンやヨガ教室など、毎日多様な教室が開かれているので、それらに参加して更に交流を増やすことや、地域への認知症の理解のために地域交流センターを活用して事業所からも情報の発信をしていくことが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の方の理解と支援の実情、方法を地域の方々へ発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々とグループホーム内の課題を一緒に検討している。また、今後は会議だけでなく、食事の時間を活用して、利用者との人間性、グループホームの雰囲気を知ってもらえるような取り組みを検討している。	運営推進会議には地域住民、行政、利用者、家族も毎回参加しており、活発な意見が出されている。会議での意見によって、イベントや行事のヒントをもらうこともある。以前はそれによってみかん畑の訪問や梅の花見の開催にも結びついた。	会議形式だと萎縮してしまう方もいるので、食事の時や茶話会などの機会を設けることで利用者や家族も意見の出しやすい雰囲気を作ってサービスの向上につなげていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状では2カ月に1回の運営推進会議での情報交換のみでとどまっている。	市が主催する認知症理解のための絵本教室に職員も参加している。管理者は認知症サポーターにも参加しており、市の要請があった際には積極的に運営にも関わり市の職員ともその場で交流の機会をもっている。	日常的な連携が弱いので、今後は定期的な窓口の訪問や、電話による連絡、報告などを行い、気軽に相談しやすい関係をつくっていくことが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の施錠を除いては、身体拘束を行わないようなケアを徹底している。転倒のリスクが高い方もいらっしゃるが、行動を抑止しないように関わりの中でも心がけている。	日中は施錠せず、夜間20:30から翌7:00の間のみセンサー利用と施錠をしている。拘束の対象者もおらず利用者それぞれが自由に移動し、ベッドからの離床も行っている。利用者の意思を尊重し、その日の気分や状態を把握することで過度な介助や抑制をしないように気をつけられている。	拘束をしないケアの実践はされているが、拘束に関する正しい理解や、新しい知識の学習のため、研修や勉強会を行って、事業所全体での取組みをさらに深めていくことが今後期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めている。今後も職員一人ひとりの意識統一を図る為、継続して研修等学習の場の提供を行っていく。		

GHきらめき自己・外部評価表(調査後記入済)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会は法人内で定期的に行っているが、権利擁護における認識の統一は十分ではない。今後も学習の場を増やし、法人内の研修のみならず外部研修等を用いて、意識向上、認識の統一を図る必要がある。	現在のところ対象となるようなケースはないが、2ヶ月に1回法人全体の研修を行い、その中で権利擁護についても取り上げられている。外部研修や伝達研修による情報の共有も進めている。	成年後見制度や日常生活自立支援事業のパンフレット等を使うことで、家族に対しての情報提供を行う事や、研修の開催時間を工夫して全職員の参加を促したり、職員に準備に関わらせることで事業所全体の意識を高めていくことなどが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、説明を行い、同意を頂いている。また、改定時にも全てのご家族様へ連絡し、同意を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接職員、管理者へ申し出られたことに関しては、その都度全職員へ周知し、対応している。また、ケアマネージャーにより、要望等の情報収集をして頂き、プランに反映することで、実際のケアに取り込んでいる。	家族の要望や苦情は、日々のサービスの中で面会、電話などを通して聞き取っている。申し出はその都度ミーティングや申し送りノートなどで共有し、職員全体で意見を取り上げ、話し合いがなされている。	意見の少ない利用者に対しては、家族やキーパーソンと協力して意見をくみ取ることが望まれる。また、改善内容や報告を、「きらめき便り」や「きらめき通信」などの形で家族に対しても発信していくことに期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より、職員の気づきを積極的に出すように促している。出た提案に関しては、最終的に月1回開催している職員会議に挙げ、今後の方針として実践につなげている。	経験の長いスタッフが中心になって情報を伝達している。日々の申し送りや会議などからも意見のフィードバックや意見交換を行い、新人とも意見を出し合うことで相乗効果を生み、職場全体で運営の改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に対しては、就業環境の整備に関して、まだまだ不十分な点はあるが、労働時間や向上心を持てる職場環境・労働条件において、一つずつ改善に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢にて採用対象から排除する事はない。一人ひとり、個人の特徴を仕事に活かせるように良い面を見つけるよう努めている。	20代から50代まで各年代のスタッフが協力してケアにあたっている。個別の能力を日々のケアにも活かしており、俳句が得意なスタッフが利用者から上手く言葉を引き出し、近隣病院の句会に発表したりと、生き生きとして働いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	権利擁護の研修会を基に職員の理解、認識を図っている。また、利用者の当たり前の生活を目指す中で、人としての人権は外す事ができない為、ケアの見直しの中で職員の意識統一を図っている。	法人全体の研修、スタッフミーティング、月1回の勉強会などでコミュニケーションや人権教育に関して学習している。職員が利用者としてグループ内他施設の施設体験をすることで利用者目線でサービスを見直し、ケアの改善につなげている。	外部研修への参加などに参加することで意識を高め、伝達研修を行うことでパートを含めた職員への周知徹底を進めていき、事業所全体での更なる意識の向上を期待したい。

GHきらめき自己・外部評価表(調査後記入済)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、職員全体に均一の研修を行っていたが、経験年数ごとのキャリアアップパスを作成し、個人の能力別の研修スケジュールを作成している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内に介護施設がある為、他部署の介護施設の職員体験利用を通し、職員同士の交流を促している。今後は法人外の同業者との交流の場も研修の中に取り込んでいく。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望、訴えには傾聴し、行動なども観察を行い、本人様の真意をくみ取れるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャーだけでなく、職員全員でそれぞれの関係性を築いている。その中で、ご家族様の要望を抽出し、対応している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み対応時、グループホーム利用した際のメリット、デメリットの説明と本人様にとって最も望まれるサービスの検討、助言を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	充分には築けていないが、お互い支え合える関係を目指し、関わりをもち、また職員にも伝達している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の関わりの限界を把握し、できる限りの関わりと協力を頂いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の訪問時には、今後も可能な限り来て頂けるよう相談している。また、馴染みの空間が近くにある場合は、定期的にその場へ足を運ぶよう支援している。	家族や昔なじみの知人が訪れることもあり、利用者の表情も明るい。隣接した小規模多機能の利用者とのふれあいもあり、行き交いも容易なため日常的に交流している。来られた知人に対してはまたお越し頂けるようお願いしており、関係が途切れないように支援している。	面会に来られない方に月に1回は状況報告を行ったり、意欲低下が見られる利用者に対しても、家族や知人とも協力することで、本人の意欲を高め、長く関係が継続されていくことを期待したい。

GHきらめき自己・外部評価表(調査後記入済)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で過ごす場所での配置やその中での職員のパイプ役としての役割に注意している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際、終了後関われるケースが今現状まだない。利用されていない方に対しては、相談されればいつでもご相談に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	充分ではないが、職員一人ひとりの気づきから思いや意向の把握に努めている。	利用者の話を聞き取る姿勢を表に出し、傾聴に努めている。アセスメントは職員複数の目を通して本人の意向を把握し、食事をおいしく食べてもらえるような配慮や、車いすから自立歩行したい利用者の為に、杖を手の届くところに配置したりと本人本意のケアを心がけている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報を基に、人生歴の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームでの過ごし方になってしまいがちだが、その都度、一人ひとりの過ごし方や本人の残存能力の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心にご本人様、ご家族様の意向の把握を行い、介護計画に反映している。	利用者の気持ちを代弁出来るケアを意識し、担当者会議時に現場の意見も取り入れてケア目標を設定している。3ヶ月に1回のモニタリングで家族の意向も直接確認し、スタッフと家族も連携をしながら日々の活動に落とし込まれている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の焦点シートを用いて、職員間の情報共有に活用している。		

GHきらめき自己・外部評価表(調査後記入済)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在の実践は不十分ではあるが、ご本人様に必要な事や要望に対し、既存のサービスに捉われず、応えていこうと考えている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在の実践では不十分な点が多い。地域資源の把握と活用に努める必要性を感じている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	最寄である母体病院がかかりつけ医となることを希望される方が多い。希望されない方に関しては、希望するかかりつけ医を選択されている。	自由に病院を選ぶことが出来るが、8名の利用者が隣接する母体病院をかかりつけ医としており、2週間に1回程度往診にもきてもらっている。他診療科目への外来時は家族と連携し、必要であれば職員も付き添っている。主治医とは直接の交流もあり密に連絡が取れる関係が構築されている。	介護と医療での情報の共有はよく取られているが、看護記録と介護記録の記載があいまいなため、看護記録を細かく取ることによって明確な情報を記載していくことが今後期待される。
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が日常の中で気づくことや心配な点を隣接施設の看護師や病院看護師に相談できるシステムがある。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院への入院であれば、情報共有できる密な連携が可能である。他の病院であれば、不十分な病院もあると思われる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族との話し合いを行い、事業所内での方針の確認を行っている。まだ具体的なケースがないが、地域の関係者を含むチームができるのであればチームで支援していきたいと考えている。	入居時に同意書によって終末期の意思の確認がされている。今までは対象者がいなかったが、グループ施設では該当例があり、今後はそこでのケースを共有し、相互に協力しながら具体的なケースの発生に備えている。マニュアルも現在作成しており、Drともいつでも連絡が取れる体制が作られている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	充分ではないが、病院看護師指導の下で心肺蘇生法の実技研修を定期的に行っている。また、緊急時の対応として、24時間母体病院の医師による対応が可能なシステムがある。		

GHきらめき自己・外部評価表(調査後記入済)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施しており、近所の地域住民の方にも参加して頂いている。	家族や近隣住民も参加し、グループの3施設と合同で防災訓練を実施している。毎年マニュアルも見直しており、夜間想定、避難誘導も新人の職員を中心に行っている。訓練時には消防署の指導も受けており、災害への対策が共有されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが対応に心がけている。また、他部署の介護職員の研修で1日間の利用者体験を実施しており、客観的な職員の対応に対する指摘等アンケートと問診にて抽出している。	正社員を中心に、他施設での利用者体験をすることで、利用者目線でのケアを心がけている。研修の受け入れも行き、その際には利用者目線での改善点も挙げてもらっている。個人情報への意識も高く、研修や掲示物への掲載時は必ず利用者からの許可も得るようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心身機能の低下に伴い、自己決定の場が減少してしまう為、小さな事でもできる限り自分で選択、決定できるよう心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先は今だ残っているが、限りなくご本人様のペースに合わせたケアが行えるように日々振り返りと改善を心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	不十分な点が多いが、白髪染めの必要性やお気に入りの髪飾りなど職員ができる限り気づきの目を持ち、気づいた時は実践できるよう努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の心身機能、能力の状態により、現状積極的に調理参加を行えないが、できる範囲での参加は積極的に促している。	状態のいい利用者には皮むきや簡単な調理の手伝いをしてもらうこともあり、能力を活かしてもらっている。調理場はカウンターになっており、利用者も一連の作業や、調理の音や匂いを感じることで刺激となっている。メニューは職員や利用者の意見を聞きながら、バランスよく決めており、利用者の意思を尊重している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全ての利用者様の水分、栄養管理を行っているが、一人ひとりの習慣に置いては不十分と感じる。ご本人らしさに焦点を当て、できる限りご本人様らしく過ごせるよう支援を行っていく必要性を感じている。		

GHきらめき自己・外部評価表(調査後記入済)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアはご本人様のレベルに応じ、できない個所の支援を徹底している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄においてもできない個所の支援を基本として支援している。	夜間のみオムツ使用者がいるが、日中はトイレのサインを見て取り、トイレ誘導し、自分で出来ることは自分でやってもらっている。本人の自尊心や羞恥心にも配慮したケアを心がけ、過剰な介助をしないようにしている。	忙しいときなど職員によっては流れ作業的になったりバラツキが見られる。利用者それぞれの排泄リズムを把握し、ケアプランを共有することで、本人本意のタイミングで、スタッフ全員が余裕をもった対応を出来るように周知、学習していくことが今後期待される。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医、看護師とも話し合い、薬と水分、食事など定期的な排便を促している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴しない期間が長くないよう、定期的な入浴にて清潔が保てるような配慮はしているが、基本的にはご本人様の要望にて対応している。	利用者の希望によって週2、3回の入浴を行っている。浴槽につかるのが好きな利用者には入浴剤を利用したり、毎日の入浴を希望される方には毎日の入浴にも対応している。自分で出来ることは自分でしており、のびのびと入浴されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	意思表示が可能な方に関しては、ご本人様の要望に応じ、休憩等定期的にとって頂いている。意思表示困難な方に関しては、定期的に声かけを行い、ご本人様の意思を確認し、気持ちよく過ごせるよう心がけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の管理は行っているが、その都度内容の変更がある為、現在の服薬状況と作用、副作用について見直している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	積極的には行えていないが、現在の人員等の中で出来る範囲での支援を行っている。		

GHきらめき自己・外部評価表(調査後記入済)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的には行えていない。今現状の中で可能なことから取り組んでいる。	外出が出来る利用者は出来る限り敷地内を散歩したり、イベントでグループ内の施設合間で商業施設に買い物に行ったり、ドライブしたりしている。	スタッフだけの対応では限界があるため、地域住民や家族、知人とも協力をすることで、積極的な外出支援を行って行くことを今後期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての利用者をご自分で金銭管理が困難であるため、職員が管理している。ご本人様にも職員が管理している事は毎回説明している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの手紙に関しては、すぐにご本人様へお渡ししている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにご本人様が季節を感じる事ができる様な飾り付け等を検討し、できる限り心がけている。	隣接のデイサービスと共同の玄関には、七夕飾りなど季節毎の飾りがされている。フロアには利用者と一緒に作った花火の貼り絵もあり、季節感のある雰囲気を作られている。リビングに横になれるスペースもあり、居室では不安な利用者が休めるようになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の関係性には配慮している。一人になることができる空間に関しては、現状居室しかなく、ハード的な問題の中で今後検討が必要な項目である。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	孫、ひ孫の写真などご本人様が大切にしているものを設置している。認知症により、物がありすぎると混乱される方もいらっしゃる為、本人様の状況に注意しながら設置している。	利用者、家族の希望によって使い慣れた家具や、家族の写真などが持ち込まれ、利用者それぞれの状況を見ながら家族とも相談して、過ごしやすい空間に配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り、安全の範囲内で自発的に生活できるよう心がけている。		